

8. 兵庫県内海漁家の家計構造（第3報）

兵庫県立姫路短大 末政 清子
香川 敦子
○安野 礼

1. 漁家家庭の生活向上のため（水産庁の沿岸漁業集約経済調査の一環として）

2. 複式家計簿集計整理

3. 第1報第2報に於て兵庫県の内海漁家の経済経営分析中の漁家経済抽出精密調査のうち、家計を集計整理し、その収入及び食物費について報告した。今回は衣服費及び住居費、教育娯楽費、雑費などについて報告する。

衣服費については、その職業の特性から下着及び労働着についての支出が多い。特に益暮にその増大がみられる。平均年間40,000円～43,000円。

住居費、住居は海浜に密集している小住宅であるが、自家の大部分で30戸中借家は2戸であった。専業漁家では盛漁期に多く費され閑漁期には平均1,000円に満たない。（平均1,500円～2,000円）

保健衛生費、職業の関係並びに家族数の関係で収入の割りに銭湯の為の出費がかさんでいる月平均2,000円～3,000円。

教育娯楽費、教育費としては目立ったものはなく学校教育もせいぜい高校止りである。ソロバン・花のけいこなどの月謝がみられる。娯楽費としては、映画が主である。仏様花代と云うのが常に出ている。都市生活に比べ先祖のお祭りに対する関心が強い。